

＜社会的背景＞

「開発による歴史的景観の喪失」、「文化財そのものの喪失」、「地域コミュニティの形骸化等による伝統文化の断絶」、「文化財を継承する意識の希薄化」、「ふるさと回帰の意識希求」、「文化財等の地域資源を活用した観光振興」等

＜国・都の動向＞

（国の施策）文化財保護法による保護対象の拡大、文化財登録制度の拡充、歴史文化基本構想策定技術指針の策定（都の事業）文化財情報（情報誌発行、WEB上での文化財データベース公開）の発信、文化財ウィーク事業等実施

＜本市の動向＞

「西東京市における文化財保護のあり方について（建議）」（平成 25 年 6 月）
今後の文化財行政のあり方として、文化財を確実に保存し、未来につなげるために、歴史文化を身近なものとし、文化財が現代の生活の中に共存し、地域の資源としてまちづくりに活かされることを求めています。

＜本市のまちづくり（第 2 次基本構想・基本計画）との関連＞

（位置づけ）郷土の歴史である文化財を保護し、地域の文化を大切にするまちをめざします。また歴史、文化などの地域資源を活かし、まちの魅力の向上と発信に取り組むと位置づけられる。

施策方針

まちづくりの方向『創造性の育つまちづくり』
創-2 多様な学びと文化・スポーツが息づくために
創-2-4 文化芸術活動の振興
まちづくりの方向『活力と魅力あるまちづくり』
活-2 地域性を活かして人が集う魅力的なまちになるために
活-2-1 まちの魅力の創造

＜本市の教育方針（教育計画）との関連＞

（位置づけ）生きる力の育成に向けて学力及び体力の育成をするとともに、文化財の保存と活用を通じて、多様な生涯学習の振興を図ることを掲げています。

施策方針

基本方針 1 「生きる力」の育成に向けて
（1）確かな学力の育成
①きめ細かな学習指導による基礎・基本の習得と活用
（3）健康と体力の育成
①たくましく生きるための健康と体力づくりの推進
基本方針 5 いつでも・どこでも・だれでも学べる社会の実現に向けて
（1）多様な学びを支える生涯学習の振興
④文化財の保存と活用の充実

歴史文化基本構想

＜本市の文化財等を取り巻く主な課題＞

- 課題① 文化財に対する市民認知度の向上、文化財保護の意識等の醸成が必要
- 課題② 継続的な調査研究と情報公開、保護制度の拡充等、確実な保存の仕組みが必要
- 課題③ 学校教育・生涯学習での活用等、普及活用のための仕組みづくりが必要
- 課題④ 保存・活用に関わる推進体制の充実、環境の整備が必要

＜計画のねらい・意義＞

- 1. 西東京市の文化財を紹介し、昔と今の生活、自分と地域のつながりの理解を深めます。
- 2. 西東京市の文化財の保存・活用の意義を伝えます。
- 3. 西東京市の文化財等を守り、活かすためのアクションプランを明らかにします。

＜本計画での歴史文化のとらえ方＞

国の歴史文化基本構想の考え方にに基づき、関連文化財群の概念を踏まえて、ストーリーを例示します。

- ①文化財を単体としてみるだけでなく、その周辺環境も含めて、総合的に理解するために「関連文化財群」をまとめます。
- ②それらから作られる地域を超えた「ストーリー」（例）によって、西東京市の歴史文化の特性をわかりやすく語っていきます。

＜西東京市の歴史文化を語るストーリーの例＞

- ① 武蔵野台地を拓いた人々「縄文人のふるさと『下野谷』の物語」
- ② 水と集落「土に生きる近郊農村の物語」
- ③ 町場と生産場をつなぐ大動脈「旅と物流の舞台『青梅街道』の物語」
- ④ 村の祈りと誇り
- ⑤ 近代化するまちと産業と暮らし
- ⑥ 武蔵野の人々の学問・文化・文学

○歴史文化を語るストーリーの意義

次世代：身近な歴史や文化の理解を深め、西東京市で育つ子どもたちの考える力を育みます。
地域：身近な歴史や文化とのつながりを認識し、地域に対するアイデンティティを醸成します。

○伝えたい視点

西東京市の今と昔を理解することで、自分たちの地域、歴史として共有し、これからみんなで守り、つないでいきます。

＜計画期間＞

平成 28 年度から平成 35 年度
原則 10 年としますが、第 1 期については、第 2 次基本構想・基本計画の計画期間との整合性を図り、平成 35 年度までとします。

＜基本理念（案）＞

武蔵野を拓き、武蔵野に暮らした人々の歴史文化をともに守り、広げ、未来につなぐ。
文化財が人をつなぎ、地域を守り育てるまち、ふるさと西東京市。

＜保存・活用の基本的な方向＞

- 目標① 西東京市の歴史文化を知る ⇒柱 1
- 目標② 歴史文化を守る ⇒柱 2・柱 4
- 目標③ 歴史文化を広げ、未来につなぐ ⇒柱 3・柱 4
- 目標④ 文化財を、人をつなぎ、育てるまちづくりに活かす ⇒柱 4
- 目標⑤ 重点施策として下野谷遺跡の計画的な保存・活用を行う ⇒柱 5

（計画の柱）

- 柱 1 文化財の調査・研究
1-1 文化財の計画的で総合的な調査の推進, 1-2 文化財の記録
- 柱 2 文化財の保存管理の推進
2-1 文化財の保存管理対策の推進, 2-2 文化財の担い手の育成・支援, 2-3 文化財保護制度の充実
- 柱 3 文化財の普及啓発及び活用の推進
3-1 文化財情報の公開・発信, 3-2 文化財を活用した学校教育等の充実, 3-3 生涯学習と連携した文化財に親しむ機会づくり, 3-4 市民の参加による文化財普及啓発の推進, 3-5 文化財を活かした地域の魅力づくり
- 柱 4 文化財の保護環境の充実
4-1 都市計画と連携した文化財保存・活用の環境づくり, 4-2 文化財の保護・学習拠点の整備・充実, 4-3 新たな保存・活用拠点の設置検討, 4-4 推進体制の充実, 4-5 関係する機関・団体との連携強化
- 柱 5 下野谷遺跡の保存・活用
5-1 史跡の継続的な調査・研究, 5-2 史跡の継続的な保存・管理, 5-3 史跡整備と展示施設の設置, 5-4 史跡の活用の推進

保存・活用計画